

田原市図書館ふしぎ文学半島プロジェクト2018
“ふしぎ文学の達人”が選んだ 「ふしぎ」 オススメ本

選者：金原瑞人氏（翻訳家・大学教授）

選者コメント

1. 『飛ぶ孔雀』 山尾悠子 文藝春秋 2018

◆火が「しんねりと燃え難い」世界を舞台にした幻想的な中編がふたつ。火の燃え難い世界では、物語も燃え難い。どちらも事件が散発し、人と人がすれ違い、思うように話がつながらない。しかし、それらを描く文章が思い切り魅力的だ。山尾文体を堪能できる1冊。今年の泉鏡花賞受賞作。

2. 『神様の住所』 九螺ささら 朝日出版社 2018

◆短歌と短歌の間にエッセイをはさむと、こうなる。たとえば、「く体積がこの世と等しいものが神」夢の中の本のあとがき」という歌に、哲学や時間や空間や、電車や人形の家や、宇宙や人の脳についてのエッセイがあって、最後に「NとN、SとSのくつつかなさをこの世の極みの手応えと思う」という歌が置かれて、おしまい。今年のドゥマゴ賞受賞作。

3. 『エイリア綺譚集』 高原英理 国書刊行会 2018

◆幻想文学・ゴシックノベル評論家としてはもちろん、『ファイン／キュート』や『ガール・イン・ザ・ダーク』などの名アンソロジーを編む一方、『不機嫌な姫とブルックナー団』や『歌人紫宮透の短くはるかな生涯』などの小説でもユニークな活動を続けてきた高原英理の中短編集。

選者：東雅夫氏（アンソロジスト・文芸評論家）

4. 『異形のものたち』 小池真理子 KADOKAWA 2017

◆昨年、怪談文芸系の代表的な短篇集3冊が集英社文庫に収められて、あらためて「ホラー・ジャパネスク」に占める重要性を再認識させた著者による最新の短篇集。全6篇のうち、とりわけ後半3作のたたみかけるような恐怖のつるべ打ちは出色。異郷から恋人を慕って来日した女性の執念がこもる呪物譚「ソフィーの手袋」、山荘の地下室に蟠るモノの底深く不条理な怪異を描く全篇の白眉「山荘奇譚」、謎めいた隣家の女霊を描いて一幅の絵画のごとき美的至福へ誘う「緋色の窓」……英米の幽霊物語と日本的怪談の妙味が渾然一体となったかのごとき幽玄な読み心地は、作者の独擅場といえよう。

5. 『人喰観音』 篠たまき 早川書房 2018

◆時を超えて生きながらえる、人に似て人ならざる種族と、有限の生を宿命づけられた老若男女さまざまな人々との濃密な関わりを、連作形式でクロニクル風に描きあげた長篇小説。人喰い（カニバリズム）の魔性を描いて、かくも幽玄な美と妖しさを讃えた作品が、かつてあったらどうか……。 「～なの」という特徴的な語尾が、あどけなくも畏ろしい、「スイ」と呼ばれる魔のモノに魅了された向きは、その近縁ともいうべきヒロインが登場するデビュー長篇『やみ窓』も是非。

6. 『文字渦』 円城塔 新潮社 2018

◆中島敦に『文字渦』あれば、円城塔に本書あり!? こちらは女怪ならぬ「漢字」の魔性に憑かれた人々の物語。変幻自在な着想と文体を駆使する作者だけあって、本書に収められた連作群のスタイルも多種多様。気宇壮大なSF的作品もあれば、伝奇と怪異の醍醐味にあふれる作品もあり、一読哄笑必至のスラプスティック作品まで、もちろん先達たる中島敦のエピソードも、アッと驚く形で闖入して……現代幻想文学の多彩な展開が集約されたような物語集である。

7. 『飛ぶ孔雀』 山尾悠子 文藝春秋 2018

◆現代幻想文学の精華といえ、こちらも必読の一冊。先ごろ、泉鏡花文学賞が授与されたが、これはむしろ遅きに失した感がある。あの『遠近法』や『ラピスラズリ』で、とっくに受賞していても不思議ではなかった。作者の鏡花文学に対する並々ならぬ傾倒ぶりからしても。まあ、それはさておき、本書は従来山尾作品から一步、踏み出して、新生面を拓いた意欲作でもある。とりわけ、作者の故郷・岡山の名園・後樂園と二重映しにされた奇怪な庭園を舞台とする、追いつ追われつのかぐりなどには、瞠目させられた。百鬼園先生のそれともどこかで通底する、変容極まりないヴィジョンよ。

8. 『皆川博子の辺境薔薇館』 皆川博子 河出書房新社 2018

◆今年の文化の日、ありえない椿事に見舞われた。還暦記念として開催された私の講演会の席上、皆川さんに書き下ろしていただいた（これ自体がありえない、身に余る出来事だったが）掌篇「雪」を朗読したのだが、直後になんと作者御本人が会場に降臨されたのである。完璧なるサプライズ。米寿にしてこの茶目っ気たるや（平伏）。そんな作者の世界を、ムック形式で総展望したのが本書。不肖ワタクシも、皆川魔界のキーワード解説を寄稿したが、他にも多士済々なる人々が、ミナガワ文学の尽きせぬ魅力を綴り、日下三蔵による詳細な作品解説&リストと相俟って、恰好の入門ガイドブックとなっている。柳川貴代デザインによる装幀も美事。



リストの8タイトルは、田原市図書館で貸出・予約可能な資料です。2018.12 作成